



えどとり学童室は自習室を兼ねる

校長 若林富男

冬休み前の学童も、あと2週間となりました。クリスマスツリーも完成しています。残り期間に12月のまとめをして、新年を迎えたいものです。

12月5日(火)と6日(水)の学童室は大忙しでした。中間テスト実施のため、アフタースクールの講座がなかったからです。1・2年生はいつもの場所、3～5年生は4階の多目的室を使用しました。5日は中間テストの前日でもあり、テスト対策の自学習に集中して取り組んでいました。3年生のある児童は、自分で漢字問題テストを作り、自分で答えていました。中には、小グループでお互いに問題を出し合って、学び合う姿も見られました。



校長懇談会のグループトークの時に「家に帰ってきてても、なかなか宿題に取りかからないんですよ」「家では本を読まないんです」などと話している声を耳にしました。会の最後の時に、学童の利用について話をしました。



「学童室を自習室として使ったらどうでしょうか。友達と一緒に宿題ができます。分からないことは先生に尋ねることもできます。図書室の奥なら、ひとり静かに学習できます。高学年になっても、こんな利用の仕方できます。」



「お姉さん、一緒に遊ぼうよ!」「お兄さん、この勉強を教えて!」
低学年の子どもたちが、積極的に高学年の児童に話しかけます。
「じゃあ、一緒にやろうか!」「よく見ていてね。こうするんだよ!」
高学年の子どもたちは、笑顔でゆっくりとわかりやすく説明します。

えどとり学童の良いところは、学年、学級を超えて、さまざまな子どもたちが一緒に活動できることです。高学年の児童がお手本になって、自学習を進めたり、外遊びのルールを教えたり、工作をしたり、さまざまな活動を通して、お互いを理解し合い、高め合っています。高学年の児童は、教えることで、さらに自らの学びを深め、年下の児童をいたわり、やさしい心と責任感を育てています。低学年の児童は、頼もしいお兄さん、お姉さんのやさしさに触れ、感謝する心を持ち、「こういうお兄さん、お姉さんになりたい」という理想を持つことができます。異学年間のふれあいを通して、心やさしい子どもたちがたくさん育ち、社会性が身についていくことを期待しています❀ (梶原)

